テ最モ適當ナリトナシ、五月二十五日之等關係者ヲ縣廳ニ出頭セシメ獻穀通達書ノ示達式ヲ擧行シタリ。

當日午前八時、大野松藏ハ岸田西春日井郡長、長谷川北里村長ト共ニ、山田佑一ハ木原中島郡長、原稻澤町長ト共ニ登廳シ、知事ハ湯地内務部長、丸茂警察部長、澤田、石口兩理事官、古橋警視、種田、山崎、岩本ノ各技師、馬場、堀江ノ各屬ヲ立會セシメ、一同着席スルヤ産業課長代理石口理事官ハ左ノ通達書ヲ朗讀シ之ヲ知事ニ呈シ、知事通達書ヲ獻穀者ニ交付シ左ノ訓示ヲ爲セリ。

本年十一月十四日行ハセラルヘキ大嘗祭ノ節悠紀主基兩殿ニ於ケル庭積ノ机代物トシテ新穀獻納ノ儀御聽許可相成ニ付其所有地ニ於テ收穫シタル精米壹升ヲ來ル十月十五日迄ニ縣廳ヘ差出スヘシ

但シ其耕作方法竝ニ供納容器ニ就テハ縣廳ノ指揮ヲ受クヘシ

大正四年五月二十五日

愛知縣西春日井郡北里村大字小針六十四番戸
平民農
大野松藏
明治元年十月生

愛知縣知事法學博士　松井茂

本年十一月十四日行ハセラルヘキ大嘗祭ノ節悠紀主基兩殿ニ於ケル庭積ノ机代物トシテ新穀獻納ノ儀御聽許可相成ニ付其所有地ニ於テ收穫シタル精粟五合ヲ十月十五日迄ニ縣廳ニ差出スヘシ

但シ其耕作方法竝ニ供納容器ニ就テハ縣廳ノ指揮ヲ受クヘシ

大正四年五月二十五日

愛知縣中島郡稻澤町大字稻澤字稻葉町一番地
平民農
山田佑一
明治九年十一月生

愛知縣知事法學博士　松井茂

本日ハ大野及山田ノ兩氏カ大嘗祭ノ節悠紀主基兩殿ニ於ケル庭積ノ机代物米粟ヲ獻穀セラルルノ光榮ニ接セラレ茲ニ式ヲ擧クルニ至ツタノハ最モ我輩ノ愉快トスル處テ一言茲ニ此事ニ就テ申シ述ヘ注意ヲ促シタイト思フノテアリマス机代物ノ獻穀ハ　先帝陛下産業御奬勵ノ御趣旨ヲ以テ各府縣ヨリノ獻穀ヲ許サレタ次第テアル今回今上陛下ニ於カセラレテモ之ト同樣ニ畏クモ獻穀ヲ御聽許ニナツタ次第テアルカ本縣ハ悠紀齋田ノ所在地ナルカ爲重ネテ此光榮ニ浴スルハ如何テアロウカト實ハ心配シテ居タコトテ自分モ宮内省ヘ參ツタ際ハ悠紀地方タル本縣ヨリモナホ机代物ノ獻穀ヲ御採納ニ相成ル樣ニト夙ニ願ツテ置イタ次第テアル結局茲ニ本縣ハ悠紀齋田所在地テアル上ニ重ネテ此光榮ヲ荷フコトトナツタノテ誠ニ御同慶ニ堪ヘヌ次第テアリマス各府縣カ之ヲ非常ノ光榮トシテ最モ森嚴ノ式ヲ行ヒ農事奬勵ノ爲メニ力盡シテ居ルノハ素ヨリ然ルヘキコトト思フ本縣ハ悠紀齋田ノ光榮ニ浴シタル爲メ萬一此方面ニ力ノ集注ヲ缺イテハ相濟マヌコトテアツテ土地ノ者ハ協力シテ獻穀者ヲ扶ケ立派ナ獻穀ヲ作リ上ケ流石齋田所在地ノ縣丈ケアツテ机代物ノ獻穀モ此通リテアルト云フコトニセンケレハナラヌ又民風ノ改善及農事ノ改良發達等モ之カ動機トナリ其經營上ニ見ルヘキ點カアラネハナラヌ今回獻穀ヲ御採納ニナル御趣旨ニヨリ特ニ諸君ニ望ムハ清淨潔白ナル精神ヲ以テ之等ノ任ニ當ラレタイ又栽培地ニハ注連繩忌竹竹矢來等ヲ爲シ大嘗祭獻穀田トカ大嘗祭獻穀畠トカ云フ樣ナ標識ヲ樹テルカ適當テハアルマイカト思フ尙ホ之カ耕作方法ニ付テハ模範的ニ行フハ曰フ迄モナク縣モ非常ニ熱心ニ之カ指導ニ當ル積リテアルカラ幸ニ縣ト意思ヲ通シテ有終ノ美

チ擧ケシメンコトヲ望ムノテアル序ニ此機ヲ利用シテ六ツ美ノコトヲ參考ニ述ヘテ置キタイカ六ツ美村ハ慥紀齋田ニ撰定以後自分モ數回出張シテ相當ノ時期ニ於テ訓示ヲ述ヘタル次第テアルカ六ツ美村ノ齋田ハ勅定後御大喪ニ遭ヒ一年ヲ經過シタタメニ段々民風改善ノ効果モ現ハレテ來タ即チ土地ノ青年ハ朝起ヲ勵行シテ今日ニ至リ殊ニ青年ノ體力カ增進シタノテアル之等ハ大ニ彼等ノ自覺カアツテ出來タノテ一人ニ付キ平均三百匁乃至四百匁位增進シテ居ルサウテアル斯クノ如ク村方モ協同一致シテ齋田ニ盡力シテ居ル狀況テアルカラ六ツ美ヲ視察シテ參考ニ供セラレンコトヲ望ム次第テアル尙一言述ヘテ置キマスカ大野君ト云ヒ山田君ト云ヒ縣下ニ於テ名聲嘖嘖タルノ人テアツテ想ヒ起セハ曩キニ悠紀齋田ノ候補地トシテ撰ハレタ之ノミニテモ光榮テアルノニ又此光榮ヲ荷ハルルノハ誠心誠意ヲ以テ常ニ其業務ニ從事セラレタ結果ニ外ナラヌノテ兩君ノ爲メ喜フ次第テアル吳レ吳レモ只今自分ノ申シタ趣旨ニ叶フ成蹟ヲ擧ケラレンコトヲ望ムノテアル終リニ一言述ヘテ置ク可キ其經營方法ハ萬事實實チ旨トシ驕奢ニ流ルル樣ナコトナク最モ質實ニシテ健全ノ方法ヲ取ラレンコトヲ希望スル次第テアル之ニ付テハ縣關係者ハ勿論郡長村長ニ於テモ只今述ヘタ主旨ヲ諒セラレ充分ナル注意ヲ以テ兩郡兩村ノ民風改善ニ資セラレンコトヲ望ム次第テアル

玆ニ於テ獻穀者大野松藏、山田佑一ハ相踵テ知事ノ前ニ進ミ誠心誠意コノ大任ヲ完ウスヘキ旨ヲ誓ヒ次テ北里村長、稻澤町長ノ挨拶アリテ式ヲ閉チタリ。

獻穀田竝獻穀畠ノ所有者竝ニ郡村ノ狀況等ハ第一篇第二章齋田點定前ニ於ケル各郡長ノ回答中ニ畧記スルトコロノ如ク四圍ノ狀況頗ル良好ニシテ所有者亦縣下有數ノ篤農タリ。彼等カ獻穀ノ示達ヲ受ケテヨリ如何ニ熱誠奉仕ノ任ニ膺リタルカハ以下章ヲ更メテ畧述スルトコロアラン。

第二節　御買上机代物生産者ノ選定

八月二十三日ニ至リ農商務省農務局長ヨリ更ニ左ノ通牒アリ。

農第七三七六號

大正四年八月二十三日

愛知縣知事殿

農商務省農務局長　道家齊

大嘗祭庭積机代物トシテ貴管下產左記品目大禮使ヨリ買上ケ相成ルヘキニ付キ十一月一日頃（但腐敗ノ虞アルモノハ七日頃）迄ニ京都大宮御所內大禮使調度部出張所ニ納入相成度此段及通牒候也

追テ買入ハ大禮使調度部ニ於テ取計ラハルヘキニ付代金請求書等ハ同部ニ御提出相成度尙腐敗ノ虞アルモノハ採取時期荷造等特ニ御注意相成度此段申添候也

記

萊服	七	本
白菜	三	株
黍	一升五合	

次テ左ノ照會ニ接ス。

調往第七六號

大正四年九月十一日

愛知縣知事法學博士　松井茂殿

大禮使調度部長　馬場三郎

大嘗宮ノ儀ニ於ケル庭積ノ机代物トシテ別記ノ通貴縣ヨリ購入ノ儀ニ付曩キニ農商務省農務局長ヨリ及通牒置候處該品ハ貴縣ニ於テ御取纏メノ上納入相成度且本文物品供給者ヨリ代價見積書代價請求書及荷造運賃請求書御徴收回付相成度

追テ代價見積書ハ都合有之候ニ付此際至急御回付相煩度

記

一萊菔　七本
一白菜　三株
一黍　一升五合

茲ニ於テ縣ハ直チニ其生産者ノ選定ニ著手シ、縣立農事試驗場ニ通知シテ蔬菜主任荻野同場技手ヲ出頭セシメ、栽培者ノ詮衡ヲ爲シタル末終ニ左記ノ者ヲ適當ト認メ、警察部ヲシテ身元竝衞生狀態ノ調査ヲ爲サシメ其良好ナルヲ確メタル上左ノ通牒ヲ發シタリ。

農收第四五九七號

大正四年九月二十八日　湯池內務部長

西春日井愛知郡長

大嘗宮ノ儀ニ於ケル庭積ノ机代物トシテ左記ノ通リ貴郡內ヨリ御買上可相成ニ付別紙本人ヘ交付ノ上請書竝

ニ代價見積書ヲ徴シ至急御回付相成度候

追而荷損シ等モ可有之被存候ニ付多少ノ豫備ヲ加ヘ荷造リ候樣御取計相成度尙ホ容器ハ縱ノ角箱トシ寸法(縱、横、高)ハ十月十三日迄ニ御報告相成度

左記

品名	數量	納付月日	納付者住所氏名
宮重大根	七本	十一月五日	西春日井郡春日村農會
白菜	三株	十一月五日	愛知郡荒子村大字大蟷螂　野崎德四郎
黍	一升五合	十月二十八日	愛知郡幡山村　矢野國太郎

愛知縣西春日井郡春日村農會

本年十一月十四日行ハセラルヘキ大嘗宮ノ儀ニ於ケル庭積ノ机代物トシテ宮重大根七本ヲ本年十一月五日迄ニ縣廳ヘ納付スヘシ

但シ容器ハ淸淨ナル木箱トス

大正四年九月二十八日　愛知縣知事法學博士　松井茂

愛知縣愛知郡荒子村大字大蟷螂　野崎德四郎

本年十一月十四日行ハセラルヘキ大嘗宮ノ儀ニ於ケル庭積ノ机代物トシテ白菜三株ヲ本年十一月五日迄ニ

縣廳へ納付スヘシ

但シ容器ハ清淨ナル木箱トス

大正四年九月二十八日

本年十一月十四日行ハセラルヘキ大嘗宮ノ儀ニ於ケル庭積ノ机代物トシテ黍一升五合ヲ十月二十三日迄ニ縣廳へ納付スヘシ

但シ容器ハ清淨ナル木箱トス

大正四年九月二十八日

愛知縣知事法學博士　松　井　茂

愛知縣愛知郡幡山村　矢野國太郎

第二章　獻穀田ノ經營

愛知縣知事法學博士　松　井　茂

第一節　獻穀田ニ關スル施設

獻穀田所在地西春日井郡北里村ハ尾張ノ中央ニ位シ、西春日井郡ノ東北端ニ在リ。北及東ハ東春日井郡小牧町ニ接シ、西ハ五條川ヲ隔テテ丹羽郡岩倉町トナス、南方豐山師勝二村ニ隣シ歷史ニ其名高キ小牧山ノ翠峯北ニ孤立スルアリ。木曾川ノ支流タル木津ノ清流ハ小牧山ノ麓ヲ通リテ、村ノ中央ヲ走リ、灌漑ニ適シ、地ハ廣茫千里ヲ望ムヘシ。地味甚タ肥沃ニシテ農耕古來最モ盛ンナリ。而シテ獻穀田ハ人家稠密セル小針部落ヲ去ルコト一丁餘、大字小針字大門先ニシテ實ニ尾張神社ノ鳥井前ニ當リ、用水ハ豐富ニシテ清冽、百日ノ旱天至ルモ尙憂フルニ足ラス、加フルニ水害ノ虞無キ肥沃ノ美田ナリ。

大野松藏一度獻穀ノ示達ニ接スルヤ、感激措ク能ハス、身ヲ以テ之ニ當ランコトヲ期シ、北里村竝ニ西春日井郡農會ハ此名譽アル事業ヲ翼贊シ、獻穀ノ大任ヲ助成セントシ、直チニ奉贊會ヲ組織シ郡長岸田浩ヲ推シテ會長トシ、長谷川北里村長ヲ推シテ副會長トシ、村會議員ハ評議員タリ、同村各區長之カ委員タリ、以テ戮力一致獻穀者ノ光榮ヲ同村ノ光榮トシ翼贊ノ實ヲ擧ケタリ。

獻穀田ノ施設　獻穀田一段歩ハ幅員四尺ノ十字路ヲ以テ之ヲ四區ニ區分シ、繞ラスニ一間ノ不淨除田ヲ以テシ、其內側四尺ヲ矢來敷竝ニ通路トス、其內側ニ一尺ノ水路ヲ設ケ更ニ一尺ノ手畦ヲ築キテ各區二十四坪ヲ以テ作付段別トセリ。

南面中央ニ白木造ノ正門ヲ設ケ、西ニ通用門アリテ耕作從事者ヲ出入セシメ、門ハ白木造トシ觀音開キノ門扉ヲ附シ、繞ラスニ高サ五尺三寸ノ青竹矢來ヲ以テス、其延長五十二間、而シテ獻穀田外廓ニハ一間半毎ニ葉付ノ忌竹ヲ樹テ之ニ注連繩ヲ張リ、四隅ニハ檜ノ四寸角材ニ「大嘗祭獻穀田」ト謹書セル標柱竝ニ榊ヲ移シ植エテ之レニ大麻ヲ附セリ、而シテ不淨除田ノ外邊東西北ノ三面ニハ幅員九尺ノ道路ヲ設ケ、正面幅員四間長サ二十五間ハ之ヲ式典ノ用地ニ充テタリ。

獻穀田中央ニハ幅二尺八寸高サ二尺六寸制札型ノ標識ヲ立テ、正面中央ニハ大嘗祭獻穀田ト六字ヲ奉賛會長謹書シ、兩側ニ位置段別ヲ記シ裏面ニハ年號及獻穀田所有者ノ氏名ヲ記シタリ。

獻穀田作業用ノ附屬建物トシテハ、收納舍一棟、農具舍一棟、潔齋所一棟、警備所一棟アリテ、警備所ノ外ハ孰レモ尾張神社境内ニ之ヲ置ケリ。收納舍ハ間口六間奥行三間此ノ建坪十八坪トシ、屋根ハ笹板葺壁モ亦板張トシ、正面ニ一間ノ出入口三ケ所裏ニ一ケ所ヲ設ケタリ。農具舍ハ間口二間奥行一間半此建坪三坪トシ正面ニ一間ノ出入口ヲ設ク、屋根ハ萱葺ノ切妻造壁ハ板ヲ張レリ。潔齋所ハ建坪一坪半ニシテ屋根ハ萱葺ノ切妻造リトス。警備所ハ獻穀田附近ノ西南ニ設ケ、建坪一坪半ニシテ壁ハ板張リ正面ヲ硝子戸トス。尚他ニ獻穀田ニ隣接シテ所有者ノ事務所ヲ新築シ、獻穀田ノ事務ヲ執リ晝夜警備ヲモナセリ。

獻穀田耕作從事者　奉賛會ハ其ノ組織成ルト共ニ獻穀諸般ノ作業ニ從事ス可キ者ヲ選定シ、所有者ト協議シ其ノ名稱ヲ獻穀田耕作從事者トナシ專ラ所有者ヲ助ケ獻穀田ニ奉任セシム。耕作從事者ハ同村青年會各分會ヨリ一二名ヲ選ハシメ、男二十六名ヲ得精農者丹羽佐十郎ヲ田長トシ、同村小學校高等科生徒ヨリ女十四名ヲ選定シタリ。

耕作從事者ハ招集ニ依リテ定刻前潔齋所ニ參集シ、身體ヲ清淨ナラシメ作業服ヲ着ケ通用門前ニ鹽水ニテ清祓ヲ享ケ、然ル後其任ニ當レリ。而シテ其服裝、男子ハ白ノ下衣ニ、白丁、裾ニ赤緣シタル白地短袴、烏帽子、水色ノ脚袢ヲ着ケ、女子ハ下ケ髮上衣白、緋ノ袴、水色ノ脚袢竝ニ手甲ヲ着ケ、作業ノ際ハ赤襷ヲ纏ヒ、白地ニ藍ノ菊菱ヲ型染メセル手拭ヲ冠リ菅笠ヲ戴ケリ。

其氏名左ノ如シ。

丹羽佐十郎(田長)	舟橋儀三郎	伊藤繼次郎	舟橋國太郎
林　利一	野田銷三	大野　秋	吉田松三郎
石黒菊次郎	石黒覺太郎	石黒鈴吉	長谷川鎌三郎
長谷川俊一	大野勝正	丹羽松三郎	青山　清
丹羽銑一	大脇周一	吉本永一	舟橋淺一
丹羽政之助	丹羽鐵五郎	堀尾正一	熊澤德次郎
加藤義雄	水野兼三郎	佐藤　享	吉田茂三郎
舟橋ふみ子	舟橋やえ	谷口うら	長谷川久子
長谷川ゑま	長谷川ふで	吉澤さく	松田たい
山田今子	野田三千子	長森らく	舟橋とみ子
大野あきの	大野信子		

縣ハ縣立農事試驗場ヲシテ左ノ耕種豫定ヲ作成セシメ之ヲ大野松藏ニ交付シタリ。

大嘗祭獻穀田耕種梗概

品種　萬歲種

撰種　縣立農事試驗場ニ於テ採種セル純系ニ屬スルモノヲ供用シ同場ニ於テ比重一、一四ノ鹽水ニテ撰別セリ

苗代一般　主トシテ在來慣行法ニヨレトモ最モ集約ヲ旨トシ採種ハ四月三十日ニ行ヒ一坪當鰊粕四合過燐
酸石灰二十匁ヲ施シ二合五勺宛播キ仕立タル苗ヲ用ユ

本田整地　前作紫雲英ヲ用地確定後直チニ刈取リ除去シテ備中鍬ヲ以テ打起シ挿秧一週間前更ニ打返シツ
ツ土塊ヲ細碎均平シ藁灰ヲ施シ挿秧ノ前日灌水シテ荒代ヲ掻キ鰊粕及過燐酸石灰ヲ施シ代掻キヲ行フ但
シ區劃ノ設定及畦畔塗ハ藁灰施用前ニ行ヒ置クコトトス

挿秧期　六月中旬

苗取及撰別　苗ハ叮嚀ニ拔取リ根ヲ洗ヒ不良苗ヲ除去ス

株數及本數　一坪ニ付五十四株(縦一尺横六寸六分七厘)一株八本トス

肥料　段當リ左ノ如シ但總テ元肥ノミトス

鰊粕	十貫	
過燐酸石灰	五貫	
藁灰	十五貫	

除草　除草ハ五回トシ左ノ時期ニ行フ

一番除草	六月三十日	備中鍬ヲ用フ	
二番除草	七月八日	鍬ヲ用フ	
三番除草	七月十六日	八段摺ヲ用フ	
四番除草	七月二十四日	手取	

五番除草　八月一日　手取

灌漑及排水　生育中ハ常ニ淺水トシ除草ノ都度特ニ落水シテ行ヒ九月上旬穗首ノ傾垂スルニ至レハ徐ロニ
排水シテ田面ノ乾燥ヲ圖ル

病蟲害ノ防除　苗代本田ヲ通シ病蟲ノ發生ヲ認メタル場合ハ猶豫ナク驅除及豫防ニ努メ特ニ螟蟲ノ發生期
ニ注意シ捕蛾、採卵、被害莖拔取、心枯切取等ノ方法ニヨリ驅除スルコト

收穫及籾乾　九月下旬乃至十月上旬穗首以上黄變シタル時卽黄熟期ニ至レバ刈取ノ上稻架ニ掛ケ晴天三日
間ノ後扱落シ篩ニテ篩ヒ晴天二日間乾燥ス

調製　籾乾ヲ終リタルモノハ直チニ籾摩臼ヲ以テ籾摩シ一番挽ノモノノミヲ採ル

搗精　清潔ナル精米機ニテ充分精白ス

撰別　搗精ヲ終リタルモノハ白木綿ノ細長キ袋ニテ搖リ糠ノ附着セルモノヲ去リ次ニ不良米及爽雜物ヲ除
ク

栽培ニ關スル注意事項

栽培ニ關スル事項ハ參考ノ爲メ作業ノ種類、所要人夫數工程方法等日誌態ニ記載シ置クコト

左ノ如ク生育ノ狀況ヲ調査スルコト

植付當時苗ノ長サ及葉數竝ニ色合

植付後ノ調査ハ一ケ所十株宛二ケ所(右調査個所ハ豫メ一定シ置クコト)

調査時期及事項

七月　一日　草丈及一株莖數(前記二ケ所ニテ二十株平均)
七月十五日　同　上
七月二十五日　同　上
八月　一日　同　上
八月十五日　同　上
八月二十五日　同　上
成熟當時　同　上
臨時調査
出穗期（全體ノ三分一出穗セル時）
穗揃期（殆ント出穗ヲ終リタル時）
成熟期
籾及玄米竝ニ藁ノ收量

第二節　獻穀田ノ經營

獻穀者大野松藏ハ五月二十六日縣立農事試驗場ヨリ分與セラレタル萬歲種ヲ共同苗代ノ一部ニ播キ付ケ、外廓ニハ竹柵ヲ結ヒ廻ラシ葉付ノ忌竹ヲ立テ注連繩ヲ張リ、苗代田ノ中央ニ

ハ「大嘗祭獻穀田苗代」ト謹書セル標識ヲ建テ一切不淨肥料ヲ用ヒス、常ニ注意シテ不良苗ヲ拔取リ、密生セル部分ノ間引ヲ行ヒ健全ナル苗ヲ得ルニ努メ、五月三十日神職ヲ聘シテ修祓ヲ行ヘリ。

次テ獻穀田區劃工事ニ着手スルニ先チ六月十八日地鎭祭ヲ行フ。獻穀田ノ入口ヲ祭場ニ充テ、舟橋健次ヲ齋主トシ岸田西春日井郡長、長谷川北里村長、獻穀田所有者、村會議員、奉賛會役員、小學校生徒其他一般來賓參列シ嚴肅ナル式ヲ擧ケタリ。

祓式　六月二十日祓式竝ニ田植式ヲ行フ。式場ハ獻穀田ノ正門前ニ青葦ヲ以テ葺キタル祭壇ヲ設ケ、其前ニ梁間四間桁行三間ノ幄舍ヲ建テ、注連繩ヲ廻ラシ地上ニハ白砂ヲ布ク。

午前十時齋主西春日井郡神職會副會長以下齋官十五名、伶人八名所定ノ位置ニ着床スルヤ松井愛知縣知事、岸田西春日井郡長、長谷川北里村長獻穀田所有者竝ニ家族、耕作從事者、山崎縣立農事試驗場長、堀尾縣農會副會長、木原中島郡長、磯野東春日井郡長、神戸丹羽郡長、內藤愛知郡長ヲ始メトシ一般來賓、北里村青年會、本村在鄉軍人參列セリ。

大嘗祭獻穀田祓式次第

當日早旦齋場ヲ裝飾ス

午前十時齋員一同所定ノ席ニ着ク

次　獻穀者關係者及來賓一同所定ノ席ニ着ク

次　祓主祓詞ヲ讀ム

次　大麻行事
次　鹽湯行事
次　降神ノ詞ヲ奏ス
次　神饌ヲ傳供ス（此間奏樂）
次　齋主祝詞ヲ奏ス
次　知事玉串ヲ奉リ拜禮
次　獻穀者玉串ヲ奉リ拜禮
次　齋主玉串ヲ奉リ拜禮
次　郡長玉串ヲ奉リ拜禮
次　町長玉串ヲ奉リ拜禮
次　獻穀者以下玉串ヲ奉リ拜禮
次　耕作者男十六人女六人作業門ヨリ獻穀田ニ降リ立チ田植歌ヲ唄ヒ畦ノ歌ヒ男歌ヒ女ノ唄太鼓ニ合セテ苗ヲ植附ク
次　神饌ヲ撤ス
次　昇神ノ祝詞ヲ奏ス
次　知事以下齋場ニ復ス
次　一同退散

當日ノ田植歌左ノ如シ。

大なめまつりの机の代と
神にさゝぐる萬歳稻の
御代の榮えをたた一すしに
名にも負ひたる萬歳稻よ

尾張北里御田植祝ひ

本田ハ六月八日麥ヲ刈取リ六月十八日土塊ヲ碎キ翌日灌水シ一段歩當リ二十貫ノ藁灰ヲ施用シ、備中鍬ヲ以テ荒代ヲ掻キ、一段歩當リ十二貫ノ鰊粕ト一段歩當リ六貫ノ過燐酸石灰ヲ施シ區劃ヲ制定シ挿秧ニ供セリ。

田植式當日ノ挿秧ニ付キテハ苗ヲ數本宛叮嚀ニ拔取リテ能ク根元ヲ洗ヒ、不良ナル苗ヲ擇リ除キ、一坪ニ付五十四株（大埒一尺小埒六寸六分七厘）一株ノ苗數ヲ七本植エトシタリ。而シテ挿秧ノ後數日間ハ稍深水トシ苗ノ生育ヲ容易ナラノム。

除草並ニ中耕ハ、一番中耕ヲ七月三日ニ行ヒ、小形ノ備中鍬ヲ以テ大埒ヲ耕シ、二番中耕ハ七月九日ニ行ヒ手ヲ以テ小埒ヲ耕シ、除草ハ七月十六日同月廿四日八月一日ノ三回之ヲ行ヘリ

草　採　唄

草を取りましよ、ともとも御田の　秋の實りをたのしみに
御田の稻葉は日に日に繁る　御代は年月さかへ行く

祓ひ清めて御田植ゑるヨー
苗のみどりの色のよさヨー
祈り植ゑましよ玉苗をヨー
添へてあけませそのよはひヨー
語りつきましよ千代までもヨー

御田のしこぐさのこらず取つて　早く穂にほがもたせたや

灌漑　生育中ハ絶ヘス淺水トシ、以テ田面ヲ温メ肥料ノ分解ヲ促シ、特ニ最後ノ除草ヲ終リタル頃ハ全ク灌水セス、出穂前ニ至リテ再ヒ灌水シ、落花後ハ排水シテ土壌ノ稍濕ヘル位ニ保チ、九月二十日稻實ノ漸次登熟スルニ至リテ各田ノ周圍並ニ中央ニ二線ノ淺溝ヲ設ケ田面ヲ乾燥セシメタリ。

病蟲害ノ驅除豫防方法ハ苗代時代ハ苗代ヲ巡視シ螟蛾ヲ捕殺シ螟卵ヲ採集シ、挿秧ニ際シテハ一々苗ニ就キテ病蟲ノ有無ヲ檢査シタリ。而シテ獻穀田ハ小針共同苗代ニ接近シ、加フルニ一般ノ挿秧期ヨリ十日餘リ早ク田植セシカバ害蟲群ヲナシテ來リ驅除頗ル困難ナリシカ、六月二十六日ヨリ數回小學校生徒ヲシテ螟蟲ノ採卵ヲ爲サシメタリ、其回數竝成蹟ハ左ノ如シ。

第一回螟蟲採卵	六月二十六日	採卵數四千二百二十三塊
第二回螟蟲採卵	六月二十九日	同	二千二百三十三塊
第三回螟蟲採卵	七月二日	同	一千三百二十一塊
第四回螟蟲採卵	七月七日	同	五百塊
第五回螟蟲採卵	七月十六日	同	十塊

七月二日ヨリ二日間螟蟲被害株六百餘ヲ取リ除キ無害ノ稻ヲ補植シタリ。午後四回被害莖ノ切採ヲ行フコト左ノ如シ。

第一回	七月九日	三萬五千本
第二回	七月十七日	一千二百本
第三回	七月十八日	三萬五千本
第四回	七月十九日	一萬本

七月上旬螟蛉ノ發生セシ時石鹸溶液ニ除蟲菊粉ヲ浸出セル驅除液ヲ噴霧器ヲ以テ撒布セリ、同月下旬ヨリ八月上旬ニ渉リ蝗蟲ノ發生甚タシカリシカハ巾四尺長サ數間ノ白布ヲ以テ漸次一隅ニ追ヒ込ミ捕殺シタリ。

斯クテ八月二十四日出穂ヲ初メ八月二十八日出穂盛ントナリ、八月三十一日穂揃、十月五日成熟シ同月六日收穫ヲ行ヘリ。

刈穂式　十月六日獻穀田正門前ニ祭場ヲ設ケ、左記次第ニテ刈穂式ヲ擧行シ、知事代理山本理事官、獻穀田所有者及同家族岸田西春日井郡長、長谷川北里村長、山崎縣立農事試驗場長堀尾縣農會副會長、中島東春日井、愛知、丹羽ノ隣郡郡長、岩本縣技師、奉贊會役員、耕作從事者其ノ他一般來賓、青年會員、北里村在鄉軍人會員等參列シタリ。

大嘗祭獻穀田刈穗式次第

當日早旦齋場ヲ裝飾ス

第一號砲　準備

第二號砲　開始

午前十時齋員一同所定ノ席ニ著ク
次　祓主祓詞ヲ讀ム（此間一同敬禮）
次　大麻行事
次　鹽湯行事
次　降神ノ詞ヲ奏ス（警蹕此間一同敬禮）
次　神饌ヲ傳供ス（此間奏樂）
次　齋主祝詞ヲ奏ス（此間一同敬禮）
次　知事玉串ヲ奉リ拜禮
次　獻穀者玉串ヲ奉リ拜禮
次　齋主玉串ヲ奉リ拜禮
次　郡長玉串ヲ奉リ拜禮
次　町長玉串ヲ奉リ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リ拜禮
次　奉賛會員總代玉串ヲ奉リ拜禮
次　獻穀者家族玉串ヲ奉リ拜禮
次　耕作從事者總代拜禮
次　獻穀者耕作從事者及關係者田地ヘ進ミ獻穀者拔穗ヲ行フ

次　拔穗ヲ所定ノ位置ニ置キ獻穀者以下復座
次　神饌ヲ徹ス（此間奏樂）
次　昇神ノ詞ヲ奏ス（警蹕此間一同敬禮）
次　一同退散

收穫調製　稻ハ一把十二株宛ニ束ネ、獻穀田ニ設ケシ一段稻架ニ架ケ、十月十二日採リ下シ、直チニ莚上ニテ四時間日乾シソノ間三十分毎ニ手返シしいと式稻麥扱輪轉機ヲ以テ扱落シ、籾ヲ以テ糠及小米ヲ除キ、清淨ナル檜ノ容器ニ容レ之ヲヲナセリ。

搗精　十月十六日ヨリ三日間同村大字小針石黒宮吉精米場ノ一部ヲ清淨ニシ、四方ニ幔幕注連繩ヲ張リ、新調ノ搗搗二基八田式精米機一臺ヲ配置シ、十六日祓式ヲ行ヒ爾來獻穀者ノ監督ノ下ニ主任加藤義雄、助手石黒鈴吉、吉田茂三郎、石黒宮吉等日夜熱誠以テ精白ニ從事シタリ。

同月十八日午前一時精白ヲ完了シ、籾ヲ唐櫃ニ納メ翌日撰米所ニ移セリ。

撰米　撰米所ハ同村村會議事堂ヲ清掃シ天地四方ニ布ヲ張リ、室内ニハ新調セシ檜ノ机ヲ置キ、白布ヲ以テ覆ヒテ撰米臺トナセリ、十月十八日祓式ヲ行ヒ耕作從事者二十五名ハ潔齋所ニ於テ沐浴ノ上祓ヲ享ケ撰別ヲ行ヘリ、精白所ヨリ移サレシ米ハ磨室ニ於テ晒木綿ヲ以テ作レル長キ袋ニ一升宛容レテ流シ研クコト二時間許リニシテ撰米室ニ運フ。撰米ノ方法ハ黒塗澤消シノ撰米盆ノ上ニ米ヲ載セ木製ノ篦ヲ以テ一粒撰ヲナシ、此レヲ麻ノ長キ袋ニ容レ

二十分餘リ搖リ磨キ、獻穀容器ニ納メ更ニ唐櫃ニ納メタリ。

第三章　獻穀畠ノ經營

第一節　獻穀畠ニ關スル施設

獻穀畠ノ選定　獻穀ノ示達ヲ受ケタル山田佑一ハ五月二十六日、木原郡長、佐藤園藝學校長眞田農事試驗場技手ノ立會ヲ得テ其所有地數ケ所ニ就キ獻穀畠トシテノ適否ヲ檢シ、彼此研究ノ結果終ニ左ノ地ヲ最モ適當ト認メ之ニ決定シタリ。

中島郡稻澤町大字稻澤前田耕地整理區域第九十一號第九十五號

畑　一段三畝二十二坪五合

右畠ハ土地高燥ニシテ而カモ用水路大江川ノ在ルアリテ旱害ヲ蒙レルコト殆ト無ク土質ハ壤土ニシテ耕土深ク肥瘠何レニモ偏セス且ツ耕地整理完成後既ニ六作ヲ經タレハ其度合最モ可ナリト認メタレハナリ。

大嘗祭獻穀奉賛會組織　五月二十六日夜、原稻澤町長ハ町會議員ヲ招集シ、獻穀奉賛ノ件ニ付協議シタルニ滿場一致ヲ以テ左ノ事項ノ可決ヲ見タリ。

一町民ヲ以テ大嘗祭獻穀奉賛會ヲ組織スルコト

二會長ニ郡長ヲ副會長ニ町長ヲ推薦シ評議員ハ町會議員ニ委員ハ會長ニ於テ之ヲ囑託スルコト

三會則及豫算ハ追テ之ヲ定ムルコト

同二十七日、木原郡長ハ會長タルコトヲ諾シ、卽日郡役所員、町役場員、郡町農會技術員其他ニ委員ヲ囑託シ、協議ノ上同月三十一日ヲ以テ祓式ヲ擧行スルコトトシタルヲ以テ、各委員ハ庶務、式典、會計、警備、接待ノ五部ニ分レ晝夜兼行夫々分擔事務ニ盡瘁シタリ。越テ六月八日、評議員會ニ於テ左ノ通リ會則ヲ決定セリ。

大嘗祭獻穀奉賛會會則

第一章　總　則

第一條　本會ハ大嘗祭獻穀ヲ助成スルヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ大嘗祭獻穀奉賛會ト稱シ中島郡稻澤町内ノ有志者ヲ以テ組織ス

第三條　本會ノ事務所ハ中島郡稻澤町役場内ニ之ヲ置ク

第二章　役　員

第四條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名　副會長　一名　評議員　若干名　委員　若干名

第五條　會長ニ中島郡長ヲ副會長ニ稻澤町長ヲ推薦シ評議員及委員ハ會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第六條　會長ハ本會ヲ統理シ副會長ハ會長ヲ輔佐シ評議員ハ本會重要事件ヲ評決シ委員ハ會長ノ命ヲ受ケテ事務ニ從事ス

第七條　本會役員ハ總テ名譽職トス

第三章　事務分掌

第八條　本會ノ分掌事務左ノ如シ

庶務部

一役員ニ關スル事項
一文書ノ往復及印章保管ニ關スル事項
一獻穀記錄ニ關スル事項
一他部主掌ニ關セサル事項

式典部

一式典ニ關スル一切ノ事項
一建築ニ關スル事項

警備部

一警戒ニ關スル事項
一掃除ニ關スル事項
一防疫ニ關スル事項

會計部

一出納ニ關スル事項
一調度ニ關スル事項
一人夫傭入ニ關スル事項

第四章　會　計

第九條　本會ノ經費ハ寄附金及補助金ヲ以テ之ニ充ツ

第十條　本會ノ收入支出決算ハ獻穀終了後評議員會ニ報告ス

獻穀畠ノ施設　獻穀畠ハ一反歩ニシテ、中央ニ十字路ヲ拓キ之ヲ四區ニ分ツ。十字路ノ幅ハ南北ニ通スルモノ四尺ニシテ、更ニ周圍ニ幅一間ノ通路ヲ設ケタリ。故ニ耕作地反別ハ一區一畝十八歩宛ニシテ合計六畝十二歩ナリ。

而シテ南向中央ニハ正門ヲ設ケ、西方ニハ耕作ニ從事スルモノノ出入スヘキ通用門ヲ、北方ニハ肥料運搬ノ際出入スヘキ裏門ヲ設ク。正門ニハ黒木造觀音開キノ扉ヲ附シタリ。而シテ獻穀畠ノ周圍ニハ竹柵ヲ建ツ。竹柵ハ高サ五尺八寸ノ矢來形トシ、其延長八十二間、柵ニ沿ヒテ二間毎ニ葉付ノ忌竹ヲ樹テ、之ニ注連繩ヲ張リ、且ツ四隅ニハ榊ヲ植エ、之ニ麻ヲ附セリ。尚柵外南方一面ニハ幅八間長三十間ノ空地ヲ設ケ式典用地トシ、東西北ノ三面ニハ幅一間ノ柵外道路ヲ設ケタリ。

而シテ獻穀畠ノ選定セラルルヤ、稻澤町青年會員ハ進ンテ勞役ニ當リ、畠ノ地拵ヲ初トシ、竹柵ノ設備竝ニ附近道路ノ改修ニ從事シ、熱誠以テ所有者ヲ扶ケタリ。

獻穀畠ノ中央ニ幅二尺三寸高一尺八寸制札型ノ標識ヲ建テ、木原奉賛會長ハ札ノ中央ニ大嘗祭獻穀畠ノ六字ヲ其兩側ニ位置及段別ヲ記セリ。

又柵外南面西偏ニ高札ヲ建テ左ノ如キ參觀人心得ヲ掲記シタリ。

參觀人心得

一竹矢來其他建設物ヲ損ハサルコト

一附近ニ於テ塵芥紙屑等ヲ棄テサルコト

一附近ニ於テ唾ヲ吐キ其他不潔ノ行ヲ爲ササルコト

收納舍、農具舍及警備員詰所　作業用ノ建物ハ收納舍一棟、農具舍一棟トシ何レモ獻穀畠所有者宅地內ニ之ヲ建築セリ。

收納舍ハ間口三間奥行一間半此建坪四坪五合、農具舍ハ間口二間奥行一間此建坪二坪ナリ二棟トモ七尺建ニシテ屋根ハ藁葺切稜造リ壁ハ眞壁ナリ。收納舍ハ左稜ニ、農具舍ハ正面中央ニ、各々巾三尺ノ雨戸二本宛ヲ設ケテ出入口トシ、別ニ收納舍ニハ前面及後面ニ方三尺ノ無双窓ヲ拵ヘ且出入口ニハ注連繩ヲ張レリ。

又獻穀畠西方、柵外ニ警備員詰所ヲ建設セリ。間口二間半奥行一間半此建坪三坪七合ヲ有シ板葺ナリ。

警備　警備區域ハ獻穀畠ヲ中心トシテ其附近一圓トシ、警備員ハ稻澤町青年會員五百八十一名同町在鄉軍人會員二百二十三名トス、而シテ警備期間ハ祓式當日ヨリ摘穗完了マテトシ、其中挿秧期間青年會員農事ニ多忙ナル爲メ軍人會員及農事ニ關係ナキ青年會員警備ニ當リ其他ハ全部青年會員任務ニ就ケリ。

警備員ハ一日ヲ三回ニ區分シ、一回三人宛輪番交代シテ詰所ニ參着シ、袴ヲ着ケ左胸部ニ警備員章ヲ佩フル定トス。時々附近ヲ巡視シテ警戒ヲ加ヘ且ツ備附クル所ノ警備日誌ニ當番氏名ヲ初メ當番中ノ出來事一切ヲ記入スルコトトセリ。

青年會員中ニハ己カ服務セントスル前日、態々他ノ警備セル實狀ヲ視察シ置キ以テ誤ナキノ用意ニシタルモノサヘアリ。此一事ニ徵スルモ青年熱誠ノ程ヲ知ルニ足ル。

耕作從事者及作業係　耕作從事者ノ選定ニ就キテハ特ニ注意ヲ拂ヒ、稻澤町青年會員及精農者ニシテ敎育、素行、技藝、家庭、經歷等ニ付キ調査ヲ重ネ優秀ナルモノヲ簡拔シ、嚴密ナル健康診斷ヲ行ヒ之ニ加フルニ稻澤町立園藝學校生徒中ヨリ撰拔セルモノヲ以テ左記十六名ヲ採用セリ。

飯田領右衛門	小澤賢一	加藤利一	三浦伊兵衛
山田直一	石黒靜雄	塚本兼一	田島平兵衛
牧文七	吉田藤一	內藤專一	永井甚藏
牧周一	田中桑七	水川吉哉	川本守一

外ニ佐藤園藝學校長、大鹿縣農會農事巡回技手、小島稻澤町農會技手、作業係トシテ指導ノ任ニ當レリ。而シテ縣ハ縣立農事試驗場ヲシテ左ノ耕種豫定ヲ作成セシメ之ヲ山田佑一ニ交付シタリ。

大嘗祭獻穀畠粟耕種梗概

一品種　在來種糯あかだ

一撰種　比重一、〇〇五ノ食鹽水ニテ撰別シ清水ヲ以テヨク洗滌乾燥ス（水一升ニ付食鹽三匁五分ヲ溶

解スルコト）

一播種期　六月四日

一播種量　一反歩ニ付四合五勺トス

一畦　幅　二尺

一整　地　前作裸麥及小麥ヲ拔キ取リ區劃ヲ定メ備中鍬ヲ以テ打起シ土塊ヲ細碎均平ス

一播種法　畦巾二尺ニ作條ヲ切リ鍬ヲ以テ過燐酸石灰ヲ施シ薄ク土ヲ覆ヒ輕ク鍬ノ平ニテ壓シ鰊粕ノ液肥トシタルモノヲ施シ乾クヲ待チ最モ叮寧ニ條播シ藁灰ヲ施シ手ヲ以テ細土ヲ振リ掛ケ薄ク覆ヒテ最後ニ鍬ニテ鎭壓ス

一肥料一反歩當左ノ如シ

肥料名	用量	施肥期
鰊粕	十貫	二貫ヲ液トシテ播種ノ際施ス 五貫　六月二十日 三貫　七月五日
過燐酸石灰	五貫	元肥
藁灰	十五貫	元肥

一中　耕　根寄共三回トシ左ノ時期ニ行フ

一番中耕　六月二十日　鍬ヲ以テ粟株ノ一側ノ土ヲ反轉シテ小サキ溝ヲ作リ同時ニ追肥鰊粕ヲ施シ再ヒ土ヲ被フ

二番中耕　七月　五　日　前同樣ナレトモ他ノ一側ニ就テ行フ

根　寄　七月二十五日

一間引及除草　間引ハ三回トシ同時ニ發芽セサルモノ生育ノ極メテ不良ナルモノ等ヲ生シ株間ノ距離遠キニ過クルモノハ其都度補植ヲ行フ而シテ第一回ハ六月二十日一番中耕及追肥ニ先チテ行ヒ第二回ハ六月二十七日第三回ハ七月五日二番中耕及追肥ニ先チテ行フ此時ニ株間ノ距離ヲ二寸五分乃至三寸ニツキ一本トス生育良好ニシテ均一ナルモノノミヲ殘ス

除草ハ間引ノ都度及根寄ニ先チ行フ根寄後モ雜草ノ生長ヲ認メハ隨時行フコト

一收穫及調製　九月上旬乃至中旬成熟シテ穗ノ傾重スルニ至レハ竹篦ヲ以テ穗ヲ梗ヨリ折リ取リ莚ノ上ニテヨク乾燥シ棲枷ヲ以テ輕ク打チ落シ篩及唐箕ニテ子實ヲ撰別シ更ニ晴天一日間莚ノ上ニテ乾燥シ清淨ナル容器ニ納ム

附

作業ニ關スル注意事項

一播種量ハ一畦（一坪三合三勺當リ）ヲ枡ヲ以テ畦別ニ量ルコト

一肥料ハ總テ秤又ハ枡ニヨリ畦別ニ秤量スルコト

一播種ハ最叮寧ニシ厚薄不同ナキ樣特ニ注意スルコト

一間引及除草ノ際ハヨク注意シ靜カニ拔キ取リ殘レル粟ノ根ヲ傷メサル樣ニシ拔キタル跡ハ直チニ手ヲ以テ土ヲ壓シ拔キ去レル株ノ穴ヲ埋メ置クコト

一螟蟲其他ノ害蟲、害鳥、風雨、水旱ノ害アラハ其都度猶豫ナク驅除又ハ善後策ヲ縣ヘ具申協議ノ上行フコト

一作業ハ總テ雨天又ハ甚シク濕潤ナル時ヲ避ケ順延ノコト
一作業ニ關スル記事ハ細大漏ナク記載保存ノコト

第二節　獻穀畠ノ經營

種子撰擇竝播種　獻穀畠ニ栽培スヘキ粟種ノ撰擇ニ就テハ審議ヲ重ネタル結果「八千代」種ヲ採用スルコトトシタリ。同種ハ中島郡地方ニ於テ古來栽培セラレ來リシモノニシテ俗ニあかだト名ツケ居タリ。中熟ニシテ稈ハ高カラス、味美ク、豊産ニシテ普通作柄ニテ一段歩ヨリ二石五斗ノ收量ヲ得ルハ容易ナリ。知事ハ此名譽ヲ紀念スル爲メ新ニ命名スルニ「八千代」ノ稱ヲ以テシタリ。

而シテ獻穀畠四區中西南ノ一區ニハ粟ヲ其他ノ三區ニハ稞ヲ播種シタリ。

大嘗祭獻穀畠祓式　五月三十一日左記順序ニ依リ獻穀畠ノ祓式ヲ擧ケ且ツ播種ヲ行ヘリ。當日知事代理湯地内務部長ヲ始メ堀尾縣農會副會長、井深碧海郡長、岸田西春日井郡長、伊藤海部郡長、岩本技師、西春日井郡北里村大野松藏、長谷川同村村長、中村眞清田神社宮司、田中一宮稅務署長其他郡内各公職員及有力者殆ト擧ツテ來會シ、當時悠紀齋田講話ノ爲メ來縣中ナリシ有馬農商務省囑託及安藤農商務省農事試驗場技師亦參列シタリ。

大嘗祭獻穀畠祓式次第

當日早旦齋場ヲ裝飾ス

第一號砲　準備
第二號砲　開始

午前十時齋員一同所定ノ座ニ着ク
次　獻穀者關係者及來賓一同所定ノ座ニ着ク
次　祓主祓祠ヲ讀ム（此間一同敬禮）
次　大麻行事
次　鹽湯行事
次　降神ノ詞ヲ奏ス（此間一同敬禮）
次　神饌ヲ傳供ス（此間奏樂）
次　齋主祝詞ヲ奏ス（此間一同敬禮）
次　知事玉串ヲ奉リ拜禮
次　獻穀者玉串ヲ奉リ拜禮
次　齋主玉串ヲ奉リ拜禮
次　郡長玉串ヲ奉リ拜禮
次　町長玉串ヲ奉リ拜禮
次　來賓玉串ヲ奉リ拜禮
次　奉贊會員總代玉串ヲ奉リ拜禮

次　獻穀者家族玉串ヲ奉リ拜禮
次　耕作從事者總代拜禮
次　齋員二人大麻ヲ執リ左右ニ廻リ八ケ所ニ於テ獻穀畠ヲ祓フ
次　齋員二人鹽湯ヲ執リ左右ニ廻リ八ケ所ニ於テ獻穀畠ヲ祓フ
次　種子農具ヲ祓フ
次　神饌ヲ撤ス（此間奏樂）
次　昇神ノ詞ヲ奏ス（此間一同敬禮）
次　齋主知事獻穀者及耕作從事者畠地ニ進ミ播種ヲ行フ
次　知事以下齋場ニ復ス
次　一同退散

獻穀畠ノ作業　耕作從事者ハ各自就業ノ日時ニ從ヒ定刻ニ至レハ所有者宅內建物ノ一隅ニ設ケタル潔齋所ニ集リ、身体ヲ清拭シ作業服ヲ着シ、而シテ後獻穀畠ニ至リ其正門前ノ鹽水ヲ以テ清祓ヲ爲シ然ル上畠地ニ入ルコトトセリ。

獻穀畠ニ入ルニハ作業關係者ハ禮服又ハ作業服ヲ用フルコトトシ、耕作從事者ノ服裝ハ白色ノ下衣ニ黃色古代服樣ノ上衣ヲ纏ヒ白色短袴ノ下邊ニ赤緣シタルモノヲ穿チ、冠ヲ戴キ、草履ヲ用フルコトトセリ。

耕作從事者ノ爲ニ左ノ心得ヲ規定シ之ヲ嚴守セシメタリ。

第一條　獻穀畠ハ陛下御一代ノ大典タル大嘗祭ノ悠紀主基兩殿ニ於ケル庭積ノ机代物トシテ獻納スヘキ粟及悠紀地方ヨリ納付スヘキ稈ヲ栽培スル所ナルヲ以テ耕作ニ從事スルモノハ神ニ奉仕スル心ヲ以テ苟且ニモ不謹愼ノ行爲アルヘカラス

第二條　奉耕者ハ左ノ事項ヲ堅ク遵守スヘシ

一就業時間一時間前ニ指定ノ場所ニ參集スヘシ
一謹嚴誠意ヲ旨トシテ業務ニ從事シ毫モ專斷ノ行爲アルヘカラス
一使用器具物品ハ始業ニ當リ保管者ヨリ之ヲ受取リ終業ノ際清掃ノ上之ヲ返納スヘシ
一工作物ヲ毀損シ耕作物ヲ損傷スヘカラス
一獻穀畠ニ於テ不敬ノ行爲（喫煙、咯痰等）アルヘカラサルコト
一作業中雜談ヲ交ユヘカラサルコト

第三條　奉耕ノ任務ニ當ルヘキモノニシテ病氣其他ノ事故ニ依リ勤務シ能ハサル時ハ速ニ届出ツヘシ若シ又就業中事務ノ爲勤務シ能ハサル時ハ其旨申出ツヘシ

所有者山田祐一ハ從來犁鋤ヲ執リテ耕種ニ從事セサリシニ、一度獻穀ノ命ニ接スルヤ感激措ク能ハサルモノノ如ク乃チ祓式當日自ラ手ヲ下シテ播種セシヨ初メトシテ爾來耕作從事者ヲ率キテ獻穀栽培ノ事ニ從ヘリ。

而シテ作業係員ハ熱心指導ノ任ニ膺リ、耕作從事者ハ一同能ク其心得及自餘ノ規定ヲ服膺シ所有者ヲ扶ケテ誠心誠意栽培ニ執掌シタリシタリ。

粟ノ發育成績　五月三十一日播種シタル粟ハ六月四日頃ニ至リテ發芽シ、同八日頃生エ

揃ヒ、其後發育狀態順當ナリシニ六月三十日頃一時螻蛄ノ禍害ト螟蟲ノ發生トヲ見、直ニ之カ驅除竝ニ努メ、幸ニシテ程無ク除去シ盡シ、後ニ毫モ障害ヲ殘サス。爾來成長頗ル良好ニシテ八月四日頃ニハ出穗揃トナリ、同月末ニ至ツテ成熟ヲ告ケタリ。依テ同月三十一日午前摘穗祭ヲ執行シ同日午後大部分ノ摘穗ヲナセリ。播種シテヨリ實ニ滿四ケ月百二十三日ナリトス。更ニ九月三日殘リノ全部ヲ採取シ終レリ。

大嘗祭獻穀摘穗祭　八月三十一日天長ノ佳節ヲトシ、獻穀畠南方空地ニ於テ左記次第ニヨリ摘穗祭ヲ擧行セリ。此日知事代理原口理事官、堀尾縣農會副會長、織田代議士、岸田伊藤、上野ノ三郡長、島村赤松兩技師古橋警視、田中警察署長、中村宮司、新聞記者其他郡下有力者、公職者等多數參列シタリ。

大嘗祭獻穀摘穗祭次第

當日早旦齋場ヲ裝飾ス

第一號砲　準備

第二號砲　開始

午前十時齋員一同所定ノ座ニ着ク

次　獻穀者關係者及來賓一同所定ノ座ニ着ク

次　祓主祓詞ヲ讀ム（此間一同敬禮）

次　大麻行事

次　鹽湯行事

次　降神ノ詞ヲ奏ス（警蹕此間一同敬禮）

次　神饌ヲ傳供ス（此間奏樂）

次　齋主祝詞ヲ奏ス（此間一同敬禮）

次　知事玉串ヲ奉リ拜禮

次　獻穀者玉串ヲ奉リ拜禮

次　齋主玉串ヲ奉リ拜禮

次　郡長玉串ヲ奉リ拜禮

次　町長玉串ヲ奉リ拜禮

次　來賓玉串ヲ奉リ拜禮

次　奉賛會員總代玉串ヲ奉リ拜禮

次　獻穀者家族玉串ヲ奉リ拜禮

次　耕作從事者總代拜禮

次　獻穀者耕作從事者及關係者畠地ニ進ミ獻穀者摘穗ヲ行フ

次　摘穗ヲ所定ノ位置ニ置キ獻穀者以下復座

次　神饌ヲ徹ス（此間奏樂）

次　昇神ノ詞ヲ奏ス（警蹕此間一同敬禮）

次　一同退出

粟搗　九月二十三日所有者宅後庭ニ於テ粟搗ヲ行フ。早朝洒掃ヲ了シテ庭ニ幔幕ヲ張リ新調ノ木臼五個ヲ配置シ、佐藤園藝學校長、小島技手指揮ノ下ニ耕作從事者交ル交ル杵ヲ執リ午前十時ヨリ午後五時ニ亘リ搗精ヲ終レリ。粟搗謠左ノ如シ。

粟　搗　謠

御代を八千代と忌竹たてて
御守り下さる神神樣へ
おめでたいぞやうたつて搗かう
搗けやうたへや謠へやつけや
粟をつくつくおもへはうれし

粟ノ撰別　九月二十七日ヨリ十月二十二日迄、奉耕者交代ニテ供納用粟ノ撰別ヲ行フ。其ノ方法ハ硝子板ノ上ニ粟ヲ載セ、竹片ヲ以テ一粒撰ヲナシ、木綿袋ヲ以テ糠ヲ取リ、絹袋ニテ磨キ上ケタリ。十月二十四日精撰シタル粟ヲ各容器ニ入レ大津牧野兩神官ニ依頼シ清祓ヲ行ヘリ。

杵の調子も揃ふよう
かたりつぎましよ八千代まで
齋ひきよめてまいた粟
お禮にうつむく穗の重み
御代の八千代をくりかへし

第四章　其他ノ机代物

机代物トシテ選定シタル宮重大根ハ、本縣ノ特産ニシテ西春日井郡春日村大字落合ノ内宮

重地方ヲ原産地トスルカ如シ。而シテソノ何レノ頃ヨリ栽培セラレシカハ詳ナラスト雖之レヲ諸書ニ徵スルニ既ニ千餘年前ヨリ栽培セラレシコト明白ナリ。

同村ハ尾張平野ノ中央ニ位シ西春日井郡ノ西北ニ當リ氣候概シテ温和ナルモ冬季ハ西北ノ風最モ強クシテ大根栽培殊ニ切干製造ニ適ス。其地勢木曾川ノ分流タル五條川ニ跨リ極メテ平坦ナリ。往時木曾川流域ノ未タ完全ナラサリシ時此村ニ汎濫シテ土砂ヲ流下シ遂ニ推積シ今日ノ地層ヲ構成スルニ至リシモノノ如シ。蓋シ尙今ノ五條川ノ流域ハ春日村ノ各所ヲ貫通シタルモノタリシモ寛文二年瀨換工事ヲ行ヒ始メテ完備スルニ至リシモノニテ現今村ノ中央五條川東堤防ニ接シテ一小砂丘アリ、松樹鬱茂ス、此地五條川ニ溢水セルヤ爰ニ砂防工事ヲ施設シテ土砂ヲ停止セントシタルモノノ如ク、地下ヲ堀リ下ル時ハ往々田畦ノ舊形ヲ發見ス。之ニ由リテ見レハ本村ハ五條川洪水ノ結果形成セラレタル積土ナルヘク、土質ハ肥沃ナル砂質壤土ニシテ精細ナル砂粒ニ富ミ宮重大根ノ如キ根菜類栽培ニ好適ノ地ナリ。

宮重大根ハ元來一品ノミナリシモ近時一種尻太(或ハ捻リ)ト稱シ根部ノ末端太キモノヲ栽培スルニ至リシモ、之レハ現今ノ改良種ニシテ純正タル宮重大根ハ其葉向上性ヲ有シ、根ハ頸部ヨリ中位迄ハ圓筒形ニシテ末端尖リ、根莖綠色ヲ帶ヒ、他ハ純白色ヲ呈シ、花ハ白色ニシテ肉質緻密甘味ニ富ミ、香氣高ク、煮食又鹽藏ニ適シ、特ニ切干製造ニ好適スルヲ以テ稱セラル。

春日村農會ハ宮重大根供納ノ通達ヲ受クルヤ農會ハ勿論村民一同之ヲ至大ノ光榮トシ、屢々會同シテ栽培供納ニ關スル協議ヲ爲シ、竟ニ其栽培地ヲ同農會試作地春日村大字落合字振

形ノ外字蓮花寺(其擔當者後藤彌十郎字宮重(其擔當者服部喜郎一)ヲ選定シ蟲害又ハ傳染病發生等ノ萬一ニ備ヘ、注連繩ヲ張リ齋竹ヲ樹テ熱誠耕種ニ努メ、美事ナル收穫ヲ得テ之ヲ一方金網張ノ角箱二個ニ納メ、辛櫃ニ容レテ郡長以下村農會長山本松次郎其他農會役員、栽培擔當者、村内公職者等附添ヒ十一月九日縣廳ニ持參シテ知事ノ點檢ヲ經タリ。

机代物トシテ撰定シタル白菜(山東白菜)亦本縣產蔬菜中最モ優良ナルモノノ一トシテ知ラル。其本縣ニ入リシハ明治八年ノコトニシテ當時偶々東京帝室博物館内ニ清國ヨリ山東白菜三株ノ出品アリ、愛知縣栽培所ハ此内二株ノ拂下ヲ受ケ、之ヲ原々種トシテ栽培セシニ當初其葉色青ク容易ニ結球セサリシヲ以テ、主任戶田壽昌及耕夫佐藤菅右衞門大ニ之ヲ遺憾トシ日夜之カ栽培法ニ腐心シ千辛萬苦スルコト數年ニシテ漸ク其功空シカラス、目的ヲ達シ、遂ニ結球スルモノヲ產スルニ至リ、茲ニ於テ該種子ヲ明治十八年各郡役所及有志者ニ頒與セリ。之縣下山東白菜栽培ノ第一步トス。當時愛知郡荒子村大字中須野崎德四郎モ亦該種子ヲ佐藤ヨリ讓リ受ケ、年々熱心之レカ栽培ヲ爲セシモ社會ハ當時山東白菜ノ何物ナルヤヲ知ラス需用少ク現今ノ如キ價値ヲ認メラレス。從テ其栽培盛ナラサリシモ、明治二十七八年戰役ノ頃ヨリ需用頓ニ增加シ價格モ亦漸ク貴ク、漸次栽培額增加ト共ニ栽培法改良セラレ今日ノ如キ盛況ヲ呈スルニ至リ、今ヤ縣下到ル處其栽培ヲ見サル處ナキニ至リシモ、其主產地ハ愛知郡荒子村同郡笠寺村及ヒ西春日井郡清洲町附近ナリトス。其特性外葉ハ淡綠色ニシテ結球容易ニ、球葉ハ堅實ニシテ純白柔軟多汁風味ニ富ミ形狀ハコツプ形ナリ。

白菜供納ノ通達ヲ受ケタル野崎德四郎ハ蔬菜栽培者トシテ夙ニ縣内ニ知ラレ、就中白菜ノ栽培ニ關シテハ古キ經驗ヲ有シ、逸品ヲ出シタルコト尠カラス、今コノ光榮ヲ荷フニ至リ齋戒沐浴シテ之ニ當リ、愛知郡農會ノ指導宜シキヲ得テ優良ナル收穫ヲ得タルヲ以テ淸淨ナル藁ニ裹ミ新造ノ檜製辛櫃(上部ニ穴ヲ穿チ風通ニ便ニス)ニ納メテ十一月九日縣廳ニ持參シ知事ノ點檢ヲ經タリ。

又黍ノ生產者矢野國太郎ハ縣下有數ノ精農ニシテ、夙ニ農事ノ改良ニ力ヲ致シ、特ニ農家經濟ニ注意シテ收支度アリ、孜々トシテ耕作ニ努ムルト共ニ相當ノ產ヲ積ミ而モ公共ノ事ニ盡瘁スルヲ以テ郡内ノ模範農ヲ以テ稱セラル。

此度此光榮ヲ荷フヤ、國太郎ハ感激措ク能ハス熱誠事ニ當リ、淸淨ニ搗精ノ上、十月二十日石川愛知郡書記、伊藤幡山村長等ト共ニ精撰シタル黍一升五合ヲ麻袋ニ納メ、之ヲ辛櫃ニ容レ、更ニ大形ノ辛櫃ニ辛櫃ヲ納メテ村長以下村内公職者其他數十名ト共ニ午後三時縣廳ニ持參シ内藤愛知郡長、伊藤幡山村長等ト共ニ知事ノ點檢ヲ經タリ。

第五章　供納

斯ノ如クニシテ栽培シタル机代物米粟ハ收穫搗精ノ上十月二十五日縣廳ニ持參シテ知事

ノ點檢ヲ經タリ。

同日夜來ノ雨歇マス、秋雨蕭條タリ、獻穀田ニ於テハ午前八時收納舍ニ於テ祓ノ式ヲ擧ケ精米一升ヲ麻袋ニ容レ之ニ白絹ノ紐付ケタル檜製曲物容器ニ納メ、更ニ之ヲ注連繩張レル辛櫃ニ納メ、大嘗祭机代物ト謹書セル木標ヲ先頭ニ、北里村小學校職員生徒、同村青年會員、獻穀者、長谷川村長之ニ續キ雨皮掛ケタル辛櫃ハ白張着タル十數名ノ耕作從事者交互ニ之ヲ奉昇シ、耕作從事者數十名之ニ隨ヒ奉賛會役員、同村在鄉軍人會員其他ヲ最後トシ序列整然警察官前後ヲ警衞シツツ尾張神社ヲ出テテ岩倉町ニ著シ、獻穀者、村長、耕作從事者等數十名ハ爾餘ノ奉送者ノ見送ヲ受ケ電車ニヨリテ名古屋ニ著シ午前十一時縣廳ニ入レリ。

同日獻穀者ニ於テハ、精粟ヲ麻袋ニ容レ之ヲ檜曲物ノ容器ニ納メ、唐櫃ヲ以テ奉昇スルコト獻穀田ニ於ケルト同シク、警察官作業係、耕作從事者、木札、辛櫃、獻穀者、郡長、町長、評議員及奉賛會委員、在鄉軍人會員、青年會員、學校生徒、一般町民ノ序列ニテ雨中ヲ稻澤驛ニ着シ、一般ノ見送ヲ受ケ奉賛會長、同副會長、作業係、耕作從事者等汽車ニ搭シテ名古屋驛ニ著シ十一時縣廳ニ入レリ。

茲ニ於テ縣ハ獻穀者等ヲ產業課長室ニ於テ小憩セシメ知事室ヲ淸掃シ卓上ニ白布ヲ被ヒ靑菰ヲ敷キ、知事ハ原口澤田兩理事官馬場屬等ヲ參列セシメ、岸田西春日井郡長長谷川北里村長、獻穀者大野松藏、竝木原中島郡長原稻澤町長獻穀者山田佑一等一同著席スルヤ獻穀者ハ新穀ヲ知事ノ前ニ持參シテ點檢ヲ乞ヒ點檢終ルヤ精米及精粟ヲ一ノ辛櫃ニ納メシメ、更ニ獻穀

關係者ノ主ナルモノ數人ヲ知事室ニ入ラシメ左ノ挨拶アリタリ。

大嘗祭ノ際庭積ノ机代物トシテ臣民ヨリ獻納スル物產ヲ御嘉納ニナツテ神前ニ供セラルルハ明治四年ノ先帝大嘗祭ノ時ニ始マル御新例テアツテ皇室ノ產業御奬勵ノ御趣旨ニ出テタモノテアリマス又每年ノ新嘗祭ニ各府縣カラ精米一升精粟五合ノ獻納ヲ御聽許ニナルハ明治二十五年ノ新嘗祭ヨリ始マリ　陛下カ此新穀ヲ執ツテ御親祭ニナルノハ其本ヲ忘レ給ハス民命ヲ重ンシ給ヒ彌々農ヲ勵マシメ給フ大御心ニ外ナラヌ　今上陛下ハ此先帝ノ御新例ト二十年來ノ慣行ニ依ラセラレ今年ノ大嘗祭ニハ朝鮮、臺灣、樺太、道府縣每ニ精米一升精粟五合ノ獻納ヲ御採納ニナルコトトシ五月一日ノ官報ヲ以テ御發表ニナツタノテアル爾來縣ハ此新穀ノ供納者ニ就テ愼重ナル審議ノ結果大野、山田ノ兩君カ此名譽ヲ荷ハレタ兩君ハ縣下ニ於テ最モ農事ニ熱心ナル人々テアツテ曩ニハ悠紀齋田ノ候補地トシテ選定セラルルノ名譽ヲ得タ人々テアツタ縣ハ此命令ノ示達ノ式ヲ五月二十五日ニ擧行致シ爾來兩君ハ熱心事ニ當リ郡村ノ人々モ奉賛會ヲ作ツテ同心協力誠意ヲ以テ此名譽此責任ヲ全フセラレ獻穀畑ニ於テハ五月三十一日祓ノ式ヲ行ヒ八月三十一日摘穗ノ式ヲ行ヒ縣ヨリモ屢々人ヲ遣ハシ自分モ亦八月二日親シク視察シテ奬勵ノ言葉ヲ述ヘテ置イタ又西春日井ノ獻穀田ニ於テハ六月二十日田植ノ式ヲ行ヒテ余モ其式ニ列シ之ヲ機會トシテ民風改善ノ美果ヲ收メンコトヲ極力說イテ置イタ筈テアル獻穀田ニ於テハ十月六日刈穗ノ式ヲ行ヒ米モ粟モ非常ニ立派ニ出來上テ今日余ノ點檢ヲ經明日ヲ以テ上納ノ運ヒニ立至ツタノハ寔ニ御同慶ニ堪ヘナイ次第テアル願クハ今日名譽ヲ荷ハレタ兩君ハ勿論郡村ノ人々ハ層一層農事ニ精勵セラレ民風改善ノ上ニ努力セラレテ永遠ニ此名譽ヲ失墜セサランコトヲ希望スル次第テアル

同日夜十一時、縣ハ藤岡屬、林農業技手ヲシテ供納ノ途ニ上ラシム。而シテ之ニ附添ヒタル獻穀關係者左ノ如シ。

岸田西春日井郡長　　木原中島郡長

鈴木同郡駐在農業技手

大鹿同郡駐在縣農會技手　大脇北里村助役　原　稻澤町長
獻穀者大野松藏　獻穀者山田佑一　奉賛會代表者熊澤恒一
奉賛會代表者山田市三郎　同　加藤劒次　奉舁者　小澤賢一
奉舁者　丹羽佐十郎　奉舁者飯田領右衞門

一行ハ客車一輛ヲ借切リ翌十月二十六日午前四時、京都驛ニ著シ、小憩ノ後、十時境町門ヨリ御苑ニ入リ皇宮清所門ヲ經テ皇宮內ニ著シ、藤岡屬ハ大野松藏、山田佑一ト共ニ調度部出張所ニ至リテ係官ノ點檢ヲ受ケ左ノ供納書ヲ差出シテ退出シ、一行紫宸殿、春興殿、大嘗宮拜觀ノ光榮ヲ得同夜歸縣ノ途ニ上レリ。

一精米　一升　愛知縣西春日井郡北里村大字小針　大野松藏
一精粟　五合　愛知縣中島郡稻澤町大字稻澤　山田佑一

右大嘗祭ノ節悠紀主基兩殿ニ於ケル庭積机代物トシテ獻納ノ儀願出候ニ付本日納付爲致候也

大正四年十月二十六日

愛知縣知事法學博士　松井　茂

宮內大臣男爵波多野敬直殿

而シテ机代物黍ハ前記米粟ト共ニ藤岡屬等之ヲ京都ニ持參シテ大禮使調度部ニ納入ノ手續ヲ了シ宮重大根竝山東白菜ハ悠紀地方獻物ト共ニ十一月十一日原口理事官以下京都ニ持參シテ大禮使調度部ニ納入ノ手續ヲ了シタリ。

第六章　餘錄

机代物獻納ノ光榮ニ浴シタル大野松藏、山田佑一ハ其他ニ於テモ御用品供納ノ名譽ヲ荷ヘリ。

大正四年五月二十一日、宮內省ヨリノ通牒ニ基キ悠紀主基兩地方ヨリ粟(但シ搗精シタル秵(モチアハ))五升宛ヲ供納セシメラレタキ旨農務局長ヨリ依賴アリタルヲ以テ、縣ハ審議ノ結果之ヲ机代物粟ノ獻納者ニ命シテ供納セシメント欲シ其旨ヲ通達シタリ。

山田佑一深ク之ヲ光榮トシ、机代物ト同時ニ獻穀畠內三區ヲ秵ノ栽培ニ充テ其耕種、調製等全ク机代物ニ準シ淸淨ニ稼穡シテ美事ナル收穫ヲ得タルヲ以テ、之ヲ麻袋ニ容レ辛櫃ニ納メテ机代物供納ト同時ニ知事ノ點檢ヲ受ケ、京都ニ持參シテ大禮使調度部ニ就キ供納ノ手續ヲ了レリ。

之ヨリ先、六月二十九日農務局長ヨリ藁若干入用ニツキ材料ノ有無取調方照會アリ。次テ七月八日其數量ハ八十五貫ニシテ齋田又ハ神田ノ藁ヲ希望スル旨再照會アリ。茲ニ於テ縣ハ大野松藏ノ獻穀田ノ藁ヲ以テ之ニ充テ不足ハ他ヨリ補充セシムルコトトシ、其旨農商務省ニ回報スルト同時ニ大野松藏ニ對シ調達方通達シタリ。

通達ヲ受ケタル大野松藏ハ補充田ノ選定ニ着手シ、鈴木農業技手、長谷川北里村長ト共ニ候

補地ヲ踏査シタル結果獻穀田新藁ニテ不足ノ分ハ同村市之久田字北浦堀尾重三郎所有田ノ萬歳種新藁ヲ以テ補充スルコトニ決定シタリ。補充田ノ外廓ニハ一間半毎ニ葉付ノ忌竹ヲ樹テ之ニ注連繩ヲ張リ渡シ、四隅ニハ榊ヲ植エ、警備所ヲ設置シ、中央ニ制札型ノ標識ヲ建テ大嘗祭獻穀田補充田ト謹書シタリ。

斯クテ九月十四日修祓ヲ爲シ、各田ノ周圍ニ排水溝ヲ設ケテ田面ノ乾燥ヲ計リ、九月二十四日二十八名ヨリ成ル北里青年會市之久田第一分會員ニヨリ刈取ヲ行ヒ、一把九株宛ニ束ネ、一段稻架ニ懸ケ、乾燥スルコト三日間ニシテ籾ヲ扱落シ、九月二十八日收納舍ニ運搬ス。然シテ稻架ニ懸ケタル間ハ每晩日沒ニ先チ油紙ヲ覆ヒ、以テ藁ノ光澤等ノ損スルヲ防ケリ。

收納舍ニ收メラレタル藁ハ本田ニ於テ收穫セルモノト共ニ晴天尙二日、日乾シタル後整理シ、先ノ二把ヲ一把トシ、十貫匁宛ヲ一束トナシ新藁ヲ以テ精製セル薦ニテ包ミ其上ヲ繩ニテ四ケ所結束シタリ。

斯クシテ十月八日早朝新調セル荷車四輛ニ積載シ、尾張神社前ニ於テ村長、獻穀田所有者補充田所有者、奉賛會員學校兒童等參列ノ上森嚴ナル清祓ノ式ヲ擧行シ、終テ小學兒童數百名ヲ先頭ニ、續イテ同村在鄉軍人會員前衞シ、十有餘名ノ白丁ヲ著タル耕作從事者供納藁ヲ積載セル車輛ヲ挽キ、他ノ耕作從事者及獻穀田所有者補充田所有者、長谷川村長、以下奉賛會役員附添ヒ北里村青年會此レカ後衞ヲ承リ午前九時尾張神社ヲ發シ午後二時名古屋驛ニ到着セリ。縣ヨリハ澤田理事官ヲ派遣シテ一場ノ挨拶ヲ爲サシメ、清潔法ヲ施シ消毒シタル貨車一輛ニ之ヲ積載シ、四周ニ注連繩ヲ張リ內國通運會社ヲシテ運送セシメタリ。而シテ同貨車ハ午後七時名古屋驛ヨリ貨物列車ニ連結シ、早川定之助ヨリ供納セル藁莚等ト共ニ午前四時梅小路驛ニ著ス。縣ハ馬場屬竝神谷農業書記ヲシテ之等供納ニ附添ハシメ、西春日井郡ヨリハ鈴木農業技手、長谷川北里村長、獻穀田所有者大野松藏、補充田所有者堀尾重三郎之ニ隨ヘリ。一行ハ六ツ美村ヨリ供納ニ附添ヒタル早川幸之助等一行ト共ニ、十月九日午前八時京都驛ニ著シ、京都府警察官ニ警衞セラレテ午前十一時大宮御所內大禮使調度部ニ供納ノ手續ヲ了シ、皇宮、大嘗宮二條離宮等拜觀ノ光榮ヲ得テ卽日歸縣シタリ。

尙大野松藏ハ大禮ニ際シ、賢所京都ニ移御竝ニ東京ニ還御ノ御途次名古屋離宮奉安殿ノ御洗米ヲ供納スルノ光榮ニ浴シ、獻穀田ノ萬歳種玄米ヲ淸淨ニ搗精シ撰別磨上ヲ行ヒ、淸祓ノ上名古屋離宮ニ持參シテ供納ヲ了レリ。

大正五年三月二十日印刷
大正五年三月廿五日發行

愛知縣

印刷者　河田貞次郎
岐阜縣安八郡大垣町大字郭百五十三番戸
西濃印刷株式會社代表者

印刷所　西濃印刷株式會社
岐阜支店
岐阜縣岐阜市七軒町二百五十四番地

I18R-16

国立国会図書館